

## 平成28年度熊本県総合教育会議 議事録

日 時：平成29年3月23日（木） 午前10時00分から午前11時00分まで

場 所：審議会室（県庁行政棟本館5階）

出席者：蒲島 郁夫知事、宮尾 千加子 教育長、木之内 均 教育委員、  
堀内 忍 教育委員、吉井 恵璃子 教育委員、櫻井 一郎 教育委員、  
吉田 道雄 教育委員

議 題：熊本県教育大綱（案）について

### ■蒲島知事挨拶

- ・私はこれまで、長年にわたる教育者としての経験を踏まえ、教育は「夢への架け橋」であり、「貧困の連鎖を教育で断つ」との思いで教育行政に取り組んできた。また、国の教育再生実行会議の委員として、教育委員会制度改革をはじめ、今後の教育行政のあり方についても意見を申し上げてきたところ。
- ・本日の総合教育会議は、教育再生実行会議の提言などを踏まえた法改正により新たに設けられたもので、知事と教育委員会の協議・調整の場と位置付けられている。
- ・平成27年12月に開催した第1回目の会議では、教育プランの下、「夢を叶える教育」が着実に成果をあげていることを確認した。また、「まち・ひと・しごと創生」の動きを踏まえ、若者の地元定着の推進についても協議させていただいた。
- ・その後に発生した熊本地震の影響もあり、今回が第2回目の会議となったが、本日は、本県教育に関する「大綱」について、協議させていただく。皆様の忌憚のない意見をお聞かせいただきたい。

### ■議事（熊本県教育大綱（案）について）

#### 【事務局】

※ 資料1から3について説明。

#### 【宮尾教育長】

- ・教育大綱（案）は、教育プランをベースに、地方創生の動き、今回の熊本地震を踏まえた復旧・復興4カ年戦略を加味して作成。
- ・熊本地震における避難所運営等で、子どもたちがそれぞれの力を発揮した。避難所でお年寄りの方がトイレから出たときに、子どもたちがやかんを持って、お年寄りの方の手を洗ってあげたことなど、枚挙に暇がないほど事例がある。自分だけでなく、人のために何ができるか、隣人のために何ができるかということをも自分たちで考えて行動するということは、生きる力、もっと言うと、生き抜く力であり、一番大事なこと。この共助の心を更に今後、支えて、育てていきたい。

#### 【木之内委員】

- ・熊本地震では、子どもたちが持っている潜在的な力が、ある意味、震災を通してクロ

ーズアップされた。

- ・兵庫県の舞子高校には「防災科」があり、専門的に授業で勉強している。舞子高校の高校生は地震を経験していないが、県や教育現場を挙げて、地震の経験を伝える仕組みを作っている。
- ・我々も今回の震災の経験をむしろ前向きに捉えて、整理し直し、教育界の中でもこれをきちんと伝えながら、学校現場のものとしてどういう応援ができるか、具体案をつくりあげるといいと思う。

### 【吉井委員】

- ・教育プランに掲げてある「貧困の連鎖を教育で断つ」取り組みについては共感を覚えている。
- ・現在、小中高校を含めて不登校と言われる生徒数が 1,000 人程いると聞いている。予備軍や病欠扱いの生徒を含めるともっと多いと思う。その子たちが学校を辞めても再チャレンジできる機会を与えて、学び直すことができる環境があるとよい。子どもだけでなく、同時に大人にとっても学び直しは大事。

### 【堀内委員】

- ・子どもたちは今回の地震で避難所などでボランティアを行い、地域の大切さ、地域での自分の存在感を実感したと思う。子どもたちは、自分がそこに暮らしているのがあたりまえということから、自分は地域のためにこれができると考えて行動に移すことで視野が広がってきたように感じる。そういう充実感を経験により学ぶということがとても大事。子どもたちに、ぜひ、地域での存在感というものを学ばせたい。自分たちに何ができるか、地域と一緒に考えてもらうという意味で、「地域とともにある学校づくり」は、今後、熊本が復興するうえで重要になると思う。
- ・自分の地域を知って、それを世界に発信していくことでグローバル人材にもつながる。
- ・子どもたちは、この地震で失ったものも多いが、得たものも大きい。人の優しさ、地域の大切さ、ふるさとの偉大さなどを体験できた、いい経験だったと思う。ぜひ、この経験を生かして、教育の幅が広がってほしい。

### 【櫻井委員】

- ・子どもたちの震災に対する動きを見ていると、熊本の教育はうまくいっていると思う。子どもたちに県外に出ていかれることは悩ましいが、優秀な人材を育てるのも教育委員会の仕事である。子どもたちの夢の実現と熊本というのをどうつなげるかを考えなければならない。
- ・「貧困の連鎖を教育で断つ」取り組みは素晴らしい。教育で幸せになれるということをもっと子供たちに強く教えるべきだと思う。
- ・未来の資産の一番の事例は、熊本出身の偉人たちの事例であると思う。偉人達ががんばってきたことを、ぜひ、子どもたちに教えることが必要である。

### 【吉田委員】

- ・言葉は行動そのもの。言葉を多様に使えることが、感情の表現や行動につながると思う。例えば、子どもの「生きる力」を育てることの重要性が強調されるが、これも“よりよく”生きる力”を目指してほしい。
- ・知事が仰っている「夢を叶える」ことは賛成である。私は「求める者にのみ夢は実現する」と言っている。また子どもたちに、「夢を持ちなさい」と呼びかけるとともに子供たちが夢を求めることができる環境づくりをしていただきたい。
- ・“Build Back Better”という創造的復興を積極的に行っていただきたい。
- ・「貧困の連鎖を教育で断つ」取組みには財源が必要になる。そこで、例えば寄付金をウェブサイトで集めるなど、熊本県のサポートをしてもらうシステムなどを考えるといいと思う。
- ・幼児教育については幼小連携も大きな課題になっており、これらに対応する具体的な施策をお願いしたい。
- ・私立学校では教師が異動する機会が少ない。個々の学校組織の活性化のために、他の高校教師と情報交換したりコミュニケーション技術を学んだりする研修があれば、児童生徒たちにとってもプラスになると思う。
- ・グローバル化については、子どもたちの情報発信力はもちろんのこと、受信力の育成も大事である。今は情報が多様化しているので、情報を選択する力、あるいは選択しない意志力が必要になっている。

### 【蒲島知事】

- ・本県では、知事と教育委員会との意見交換会を毎年行っているが、国の教育再生実行会議の方々と意見交換をすると、教育委員会と知事部局は対話がないようである。熊本県がこれまで行ってきたことを踏まえ、この総合教育会議をもっと深めていかなければならない。
- ・本県では「スーパーティーチャー」という制度ができたが、これも教育委員会と私の意見交換の中で出てきたもので、現在は制度化されている。そういう意味では、総合教育会議の原点はこの意見交換会にあると思っている。

### 【宮尾教育長】

- ・熊本は県外就職率も高いということで、地方創生への対応、復旧復興に向けた人材育成が必要な状況のなかで、優秀な人材にいかにか熊本に残ってもらうか、行政としても大きな悩みである。
- ・県外に就職したい、進学したいという人たちも応援しないといけないが、他方で県内に希望する就職口が分からないという方に対しては、熊本の働く場所の魅力をアピールする必要がある。学校現場も意識を変えていかないといけない。産業界や教育関係者、保護者も巻き込んだところでしっかりと連携していきたい。

### 【木之内委員】

- ・学校が地元のことを知らないと感じる。インターンシップなどにより地域との交流が深まっているが、仕掛け方をよく考える必要がある。先生が地域をよく知り、夢を持てる仕組みづくりがあるとよい。
- ・例えば、学校のなかに“地域プロフェッショナルティーチャー”のような、地域のことをよく知っている先生がいると、地域とのコーディネート役もできる。

### 【吉井委員】

- ・産業、農業関係の高校生の発表を聞く機会があったが素晴らしい内容であった。何かを作りたいという生徒が産業系高校に進学した場合、立派な産業人材になると思う。産業系高校と中学校の先生の交換研修を行い、中学校の先生が産業系高校がやっていることを学んで中学校に戻るという制度があれば、産業系高校の良さが中学生にも分かると思う。
- ・子どもたちが、熊本城や阿蘇神社など多くの文化財が被災していることを知ることが、地域を知ることになる。地域を学んだうえで海外などに向けて語れるような人になると、立派なグローバル人材になると思う。

### 【吉田委員】

- ・「大は小を兼ねる」というが、私はむしろ、「小は大を兼ねる」と言っている。評価をするとか褒めるとか、小さなことの積み重ねが結果的に大きな効果を生み出す。

### 【堀内委員】

- ・SNSの問題は、私も子育て真っ最中であり、頭の痛い問題。しかし、今回の地震で、SNSの偉大さも実感した。子どもたちに、情報の扱い方によるトラブル、あるいは利点についてしっかり教えていかないといけない。
- ・県立中の学習発表会では、スカイプを使用していた。SNSの使い方が広がっており、悪いだけのものではないということが良く分かった。

### 【櫻井委員】

- ・県産業教育振興会は、産業界、教育委員会、産業系高校が連携して人材育成などに取り組んでおり、知事にも是非ご出席いただきたい。
- ・これからは、理屈を学んで仕事をするのではなく、体験しながら理屈を勉強する時代であると思う。
- ・特別支援学校について、小さい時には、普通の子どもたちと一緒に過ごすのがよいのではないか。支援が必要な子があたりまえにいるという状況に慣れていると差別が減ると思う。

#### ■知事のコメント（閉会）

- ・本日お示しした教育大綱（案）は、「教育プラン」をベースとし、「熊本地震からの復旧・復興」あるいは「まち・ひと・しごと創生」という観点も加味して作成したものである。
- ・大綱は、法の規定により、あらかじめ総合教育会議で教育委員会の皆さんと協議した上で、知事が策定することとなっている。
- ・本日皆さまからいただいた貴重なご意見を踏まえ、また、私の思いも込めて、教育大綱をつくりあげたいと思う。
- ・今後とも、教育委員会との緊密な連携を図り、子どもたちの「夢を叶える」教育を進めていきたいと考えているのでよろしく願います。